

最盛期を迎える 首里城正殿復元工事(その4) ～外観復元が完了！～

正殿復元工事の外観が完成

首里城正殿復元工事（工期：R4～R8年）は、令和8年秋の完成を目指して進めています。

令和7年3月31日には正殿屋根の左右に配置される龍頭棟飾の設置を開始、5月に鬼瓦（正殿屋根の降棟先端に配置される獅子飾り）及び唐破風妻飾（正殿正面中央を飾る唐破風を装飾する彫刻物）の設置を開始しました。これまで正殿を覆う「素屋根」の中で工事が進められておりましたが、正殿正面にある向拝柱及び外壁塗装が完了したことに伴い7月末から素屋根解体に着手し、令和7年9月末時点において「素屋根」外壁部分の解体が概ね完了し、令和元年10月の火災から約6年振りに首里城正殿が姿を現しました。

現在は、正殿内部での塗装・色彩や両廊下の施工などを進めています。



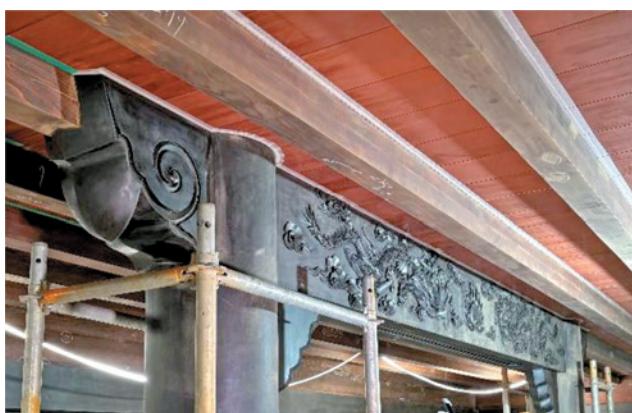
向拝（こうはい）奥 獅子彫刻



金龍金箔押 (R7.5.12撮影) 瑞雲彩色 (R7.5.20撮影) 金龍・瑞雲彩色 (R7.6.6撮影)
向拝柱（こうはいばしら）彩色状況



唐破風妻飾（からはふつまかざり）



内部の進捗状況（正殿内部2階天井額木下塗：R7.7.29撮影）



内部の進捗状況（正殿内部1階：R7.10.2撮影）



外観復元が完了した首里城正殿 (R7.8.7)



龍頭棟飾 (りゅうとうむなかざり) 吻形

正殿復元工事では、県内外の皆様からのご寄付による「沖縄県首里城復興基金」の一部が活用され、この基金を活用して木彫刻や龍頭棟飾、鬼瓦などが順次納入されています。令和7年5月には龍頭棟飾と鬼瓦が沖縄県から沖縄総合事務局へ引き渡されました。

また、扁額「中山世土」については現在沖縄県で制作が進められており、令和7年度末の完成を目指しています。

往時の輝きを取り戻した首里城正殿の姿を、是非現地でご覧いただければ幸いです。

沖縄県首里城復興基金による取組状況



鬼瓦吽形



鬼瓦阿形



扁額「中山世土」本製作状況



青空の下に姿を現した首里城正殿

お問い合わせ先
開発建設部 建設産業・地方整備課

☎ 098-866-1910